

富奥の虫送り

富奥地区は^{たへいじ}太平寺、^{しもばやし}下林、^{くらかわ}位川、^{さんの}三納、^{やはぎ}矢作、^{あわだ}粟田、^{とへいだ}藤平田、^{ふじひら}藤平、^{きよかね}清金、^{すえまつ}末松、^{なかばやし}中林、^{かんばやし}上林、^{かみしんじょう}上新庄、^{しもしんじょう}下新庄の14集落に分かれ、それぞれが同日に各集落を出発し、大たいまつのあるスポーツランドふれあい広場（中林）を目指します。14集落はそれぞれが虫送り太鼓を持ち、叩き方や太鼓の張り方も異なります。広場での大たいまつは特に大きなもので、全ての太鼓が集まってからの競演は圧巻です。また、虫送り終了後は子供相撲が行われます。以前は大人の相撲大会もあり、県内各地から大勢の力士が集まったといえます。

虫送りの行事において、平家の武将^{さいとうさねもり}斎藤実盛（1111～1183年）の馬が稲の切り株に^{つまず}躓き討ち取られたことから、その怨霊が稲の害虫となる説が全国的にみられます。富奥地区では、一向一揆に敗れた^{いっこういっき}加賀守護、^{とがしまさちか}富樫政親（1488年没）の怨霊が害虫を招いているので、その靈魂をしずめるために虫送りを行っているという伝説がのこっています。



2022年（令和4）の富奥の虫送り



点火前の「虫送り」アーチと大たいまつ